お金に対する信念尺度作成の試み

○渡辺伸子¹

(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科)

キーワード：お金に対する態度，お金に対する信念，尺度

An attempt to develop a scale of money beliefs

Nobuko WATANABE¹

(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba.)

Key Words: attitudes towards money, money beliefs, scale

目 的

本研究では，お金に対する信念を測定するための信頼性と妥当性を備えた尺度を作成することを目的とする。なお，本研究では，硬貨や紙幣などを包括する概念として“お金”という語を用い，人が持つお金に対する考えを“お金に対する信念”と呼ぶこととする。

本邦では，原岡（1990）がお金に対する態度尺度を作成しているが，渡辺・佐藤（2010）は下位尺度の概念の適切さに対し不備があると指摘している。そこで，本研究では，お金に対する態度の中でも認知的側面に特化した尺度を作成することとする。

方 法 と 結 果

予備調査1 お金に対する信念の内容を整理し，測定に有効な概念を選定することを目的として，大学生および大学院生合計146人（大学生125人，大学院生21人；平均年齢24.22歳（ $SD=8.93$ ）；男性58人，女性86人，性別不明2人）に対して文章完成法による調査を行った。“あなたにとって、『お金』はどのようなものですか（お金の意味や，お金の性質など）。”と教示し，“お金は，_____。”という未完の文章を完成させる手続きをとった。合計535件の記述が収集された。得られた記述を，KJ法（川喜田，1967）を用いて分類した。分類の結果，9つのカテゴリーが得られた。そのうち測定に適した4つのカテゴリーを尺度作成において採用することとした。採用したのは，“重要性”，“人への影響源”，“労働とのつながり”，“トラブルの原因”である。なお，“人への影響源”カテゴリーは，得られた記述の内容からさらにポジティブな影響とネガティブな影響という異なる性質が示唆されたため，“人へのポジティブな影響源”と“人へのネガティブな影響源”という異なる概念として扱うこととし，最終的に5つのカテゴリーを用いることとした。

予備調査2 5つの概念で尺度を構成することを目的として，大学生合計313人（平均年齢18.57歳（ $SD=1.62$ ）；男性178人，女性126人，性別不明9人）に対し調査を実施した。調査内容は，お金に対する信念を問う内容の42項目およびデモグラフィック変数であった。

欠損値のない309人のデータを用いて最尤法・プロマックス回転による因子分析を行った。どの因子にも.40未満の負荷量しか示さなかった項目を削除して再度分析を行ったところ，最終的に34項目から構成される5因子解の結果が得られた。全体の説明率は，50.02%であった。第1因子は“ネガティブな影響源”因子，第2因子は“ポジティブな影響源”因子，第3因子は“重要性”因子と命名した。第4因子はお金を手に入れることの困難性を表す項目が高い負荷量を示したため，“獲得困難性”因子と

命名した。第5因子は，お金を自分のした仕事の対価と捉える項目が高い負荷量を示したため，“労働の対価”因子と命名した。

本調査 予備調査2に基づき，項目数のバランスの良い尺度を作成することおよび妥当性を確認することを目的として，大学生645人（平均年齢19.81歳（ $SD=1.89$ ）；男性229人，女性398人，性別不明が18人）に対し調査を実施した。お金に対する信念を測定するために，予備調査2で用いた項目に新たな項目を加えた61項目を用いた。因子分析の結果，予備調査2と同じ5因子構造が確認されたため，予備調査2と同様の因子名を用いることとした。なお，回答の簡便さに配慮し，各因子について負荷の高い6項目を尺度項目として採用した。妥当性の検討には，お金に対する態度尺度（原岡，1990）の下位尺度の一部と就業動機尺度（安達，1998）を用いた。お金に対する信念尺度と各尺度の相関係数をTable1に示した。各下位尺度の α 係数は.74～.90と十分に高かった。

考 察

“ネガティブな影響源”，“ポジティブな影響源”，“労働の対価”，“獲得困難性”，“重要性”の5下位尺度から構成されるお金に対する信念尺度が作成された。お金に対する信念尺度の各下位尺度は，お金に対する態度と相関を示していたため，併存的妥当性が確認されたといえる。また，就業動機尺度とも一部相関が見られ，一定の構成概念妥当性も備えていると考えられる。

引用文献

- 安達智子(1998)．大学生の就業動機測定の試み 実験社会心理学研究，**38**，172-182．
- 原岡一馬(1990)．お金に対する態度と価値志向Ⅰ——態度の構造と態度尺度の構成—— 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科，**37**，199-216．
- 渡辺伸子・佐藤有耕(2010)．お金に対する態度に関する心理学的研究の動向 筑波大学心理学研究，**40**，61-71．

Table1 お金に対する信念尺度と各尺度の相関

	お金に対する態度尺度		就業動機尺度			
	社会的価値	諸悪の根源	探索志向	対人志向	上位志向	挑戦志向
お金に対する信念尺度						
ネガティブな影響源	.21* (125)	.58** (125)	.13 (123)	.09 (127)	-.10 (127)	.14 (127)
ポジティブな影響源	.68** (123)	-.09 (123)	.02 (123)	.02 (127)	.28** (127)	.03 (127)
労働の対価	.05 (125)	.21* (125)	.40** (124)	.18* (128)	.08 (128)	.26** (128)
獲得困難性	.07 (124)	.24* (124)	.17 (124)	-.02 (128)	-.03 (128)	.00 (128)
重要性	.35** (125)	-.03 (125)	.08 (124)	.08 (128)	.28** (128)	.07 (128)

※カッコ内は n 。* $p<.05$ ，** $p<.01$